

心豊かでたくましい児童生徒を育む  
小中一貫教育をめざして

## シリーズ えでゆれば

Vol.⑨



三戸小学校の校舎に接続して建設されている高等部校舎

## 進む校舎建設

現在、三戸小学校の敷地内では小中一貫校高等部（8・9年生）の校舎建設工事が行われています。

基礎工事がほぼ終了し、12月中旬には校舎の外観が姿を現すなど、来年3月の完成を目指した工事は順調に進んでいます。今回は校舎建設に関していただいた2つのご質問にお答えします。

Q1 中学校の校舎を移転改築しなくとも、小学校の空き教室を利用すればよいのではないか？

A1 ご指摘のとおり小学校の児童数は減少の一途をたどり、現在の校舎が建設された頃に比べると、半数程度へと減少しております。

しかし国では新たな教育内容をスムーズに行うため、いじめ等の教育上の課題に適切に対応し、教員が子どもと向き合う時間を確保することによって質の高い義務教育を実現するために、少人数学級の導入をすすめています。

つまり子ども数の半減が教室数の半減にはつながらず、中学生が学ぶための教室が必要となるのです。

ただし、今回の校舎建設は7・9年生（中学1・3年生）の教室全てを建設するのではなく、必要最低限の8・9年生の普通教室と特別教室を建設するもので、町の財政支出を抑えることにもつながっています。

Q2 三戸小学校の校舎はそのまま使用するのか？

A2 現在の校舎は完成から26年が経過し、一部では老朽化が進んでいるため、大規模改修を行うことになりました。

その内容は、断熱性を高めるとともに暖房設備を更新するなど、児童が快適に学ぶための環境を整えることに加え、トイレの洋式化や老朽化した部分の改修、内装をリニューアルするなど、保護者のみなさまの要望を踏まえたものがあります。

また、職員室は小中一体となっており、一貫した指導体制が確立されることになりました。